

新ブランド「FURERUMO」サイトを開設しました。



<http://www.kawamoto-sangyo.co.jp>



<http://furerumo.jp>



第83期中間報告書

平成24年4月1日から平成24年9月30日まで

- P1……………トップメッセージ
- P3……………トピックス
- P5……………セグメント別事業概況
- P7……………中間財務諸表
- P9……………会社概要
- P10……………株式情報

株主メモ

事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当基準日 3月31日
 (中間配当を行う場合は9月30日)
定時株主総会 毎年6月下旬
単元株式数 100株
株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
 みずほ信託銀行株式会社
上場取引所 株式会社東京証券取引所 市場第二部
 株式会社大阪証券取引所 市場第二部
証券コード 3604

<郵便物送付先・お問い合わせ先>

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先	お取引の証券会社になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4
電話お問い合わせ先		0120-288-324 (フリーダイヤル)
お取扱店		みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店 ※みずほインベスターズ証券は2013(平成25)年1月4日以降はみずほ証券となります。
未払配当金のみ、みずほ銀行 全国本支店でもお取扱いたします。		
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用ください。	単元未満株式の買取以外の株式売買はできません。(特別口座に記録したままでは、株式を証券取引所で売買することはできません。)

公告方法 電子公告 (<http://www.kawamoto-sangyo.co.jp>)
 ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

支払通知書に関してご留意いただきたい事項

「支払通知書」は、租税特別措置法の規定に基づき作成するものであり、株主さまが確定申告を行う際に必要となる場合があります。

当社がお支払いする配当金については、株主さまにお送りしております「配当金計算書」を「支払通知書」としてご利用いただくことができます(但し、株式数比例配分方式を選択された場合については、お取扱いが異なりますので、お取引の証券会社にお問い合わせください)。ご不明点については、みずほ信託銀行株式会社 証券代行部にお問い合わせください。





代表取締役社長

川本 武

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清祥のことと拝察申し上げます。平素は格別のご支援ご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。さて当社第83期中間期(平成24年4月1日から平成24年9月30日まで)を終了いたしましたので、事業の概況並びに主要事項をご報告申し上げます。

Q 当中間期における業績は
いかがでしたでしょうか

A 付加価値の高い製品の販売強化に努めたことで、増収増益となりました。

■ 売上高



■ 売上総利益・売上総利益率



当中間期のわが国経済は、緩やかな回復基調のなか、中国経済の成長鈍化や長引く欧州金融不安などの不安定な国際経済情勢、そして長期間の円高の影響も加わり、景気先行きに対する不透明感が増加しております。

当医療衛生材料業界におきましても、引き続き厳しい経営環境が継続しております。このような状況下で当社は効率的で積極的な事業展開を推進してまいりました。

この結果、売上高は149億68百万円(前年同期比0.9%増加)となりました。

利益面では、付加価値の高い製品の販売強化などの利益重視策を積極的に行ったことにより、売上総利益率は前中間期に対して0.3ポイント上昇し、売上総利益は29億24百万円(同2.9%増加)となりました。

経費面では、一般的な支出の節減に努めたことで販売費及び一般管理費は26億50百万円(同0.3%減少)となりました。

これらの結果、営業利益は2億74百万円(同48.0%増加)となりました。

営業外収益では、過年度に評価損を認識した為替予約を実行し、為替予約残高が減少したためデリバティブ評価益(為替予約評価益)が12百万円(前年同期は25百万円の評価損)発生いたしました。

営業外費用では、「支払利息」及び「債権売却損」の総額削減を目的として債権の割引減少に努めた結果、合計額は41百万円(前年同期比22.4%減少)となりました。また、当中間期が円高で推移した影響で為替差損が49百万円(同12.3%増加)発生いたしました。

これらの結果、経常利益は2億36百万円(同159.1%増加)、中間純利益は1億34百万円(同220.2%増加)となりました。

Q 下期の重点施策と
通期の展望をお話ください

A 自社製品の開発促進と販売拡大などの
重点施策を着実に実施してまいります。

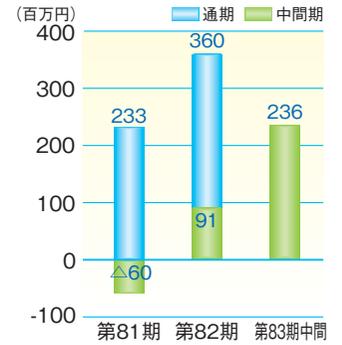
今後も厳しい環境は当面継続すると見込まれるなか、当社は、重点施策である「自社製品の開発促進と販売拡大」、「販売体制の連携強化」、「物流業務の効率化推進」、「海外向け販売拡充の体制整備」、「投下資本の効率化」に注力するとともに、全社をあげて効率的な経費支出を推進し、一層の利益面の向上策を進めて、安定した収益の確保につなげてまいります。

通期業績予想につきましては、売上高303億30百万円(前期比2.1%増)、営業利益5億82百万円(同37.9%増)、経常利益4億75百万円(同31.7%増)、当期純利益2億65百万円(同53.3%増)を予想しております。

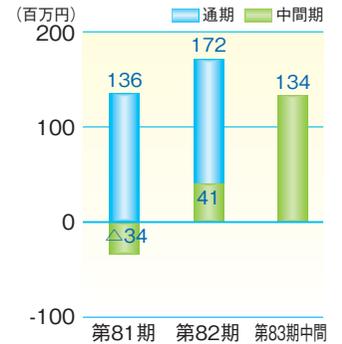
株主の皆様には、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の実績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

■ 経常利益



■ 中間(当期)純利益



■ 1株当たり中間(当期)純利益



「RFIDタグ付ガーゼ管理システム」 研究発表と展示会を行いました

当社は、術後ガーゼ遺残事故（手術後の体内ガーゼ置き忘れ事故）の根絶をめざした、新しいガーゼ管理システムを近畿大学医学部と共同で研究・開発しており、その成果を平成24年6月7日から9日開催の「第87回日本医療機器学会大会」において発表いたしました。

尚この研究はJST（独立行政法人 科学技術振興機構）による委託開発事業として開発を進めています。



研究発表



展示会場

学会併設セミナー（ランチョンセミナー）開催

平成24年9月14日から16日開催の「第52回日本産科婦人科内視鏡学会」においてランチョンセミナーを開催いたしました。当社製品「エンドラクター®」の使用症例並びに有用性についての講演は、この分野において最大のPRになりました。

テーマ：最先端の腹腔鏡下手術と術野展開のワンポイント

座長：山王病院 堤治先生

演者：倉敷成人病センター 安藤正明先生



定員を上回る250名の方にお越しいただき、立ち見の方が出るほどの超満員となりました。



安藤正明先生 堤治先生

赤ちゃん和妈妈のふれあいを応援するブランド

ふ・れ・る・も

FURERUMO 誕生

FURERUMOは「“ふれる”をもっと、ハッピーに」をコンセプトに、赤ちゃんの肌をとりまく環境（肌環境）と向き合って開発したブランドです。

FURERUMO製品のご紹介

FURERUMOは、赤ちゃん和妈妈のハッピーなふれあいを応援します。

FURERUMOは、赤ちゃんの肌、そして肌をとりまく環境（=肌環境）に真摯に向き合い、医療現場でつちかった保健衛生の技術を活かしたブランドです。赤ちゃん和妈妈のハッピーなやさしいふれあいを応援し、安心して使うことができる製品づくりを目指しています。



FURERUMO製品ラインアップ



国内向け



「感染予防関連製品」

重点販売製品を中心に売上高が増加いたしました。

製品では、衛生材料において医療機関・学識経験者との共同開発による手術関連の高付加価値製品が増加いたしました。医療用品では重点販売製品の販売を一層強化したことで、マスク・ガウン・医療用使い捨て手袋などの「感染予防関連製品」、手術・処置・検査用の衛生材料・医療用品を組み合わせた滅菌製品「セットパック製品」及び個包装消毒綿「ステリコットα」が増加し、介護用品では「口腔ケア用品」が継続して増加いたしました。一方アパレル製品では、市場規模の縮小が続く「ねまき」や「ガーゼハンカチ」は減少しましたが販売店との関係強化に努めた「ベビー用衣料品」は増加いたしました。

商品では、医療用品は一部の収益性の低い商品の販売を抑えたことでやや減少しましたが、販売体制の連携を強化したこともあって大手量販店向け販売が好調に推移し育児用品が増加いたしました。

これらの結果、売上高は144億62百万円（前年同期比1.3%増加）となりました。

手術関連製品



「セットパック製品」



腹腔鏡下臓器保護用スポンジ
「エンドサポート™」

海外向け

輸出を取り巻く厳しい環境の影響を受けて、売上高は減少いたしました。

中近東を中心に欧州・アジア・中南米等の幅広い市場に対して、国内製の衛生材料や医療用製品に海外からの調達品を加えた多種にわたる製品群を積極的に販売いたしました。しかし、中近東市場における医療機器輸入制度の改正による影響が継続しており、売上高は5億5百万円（同8.8%減少）となりました。

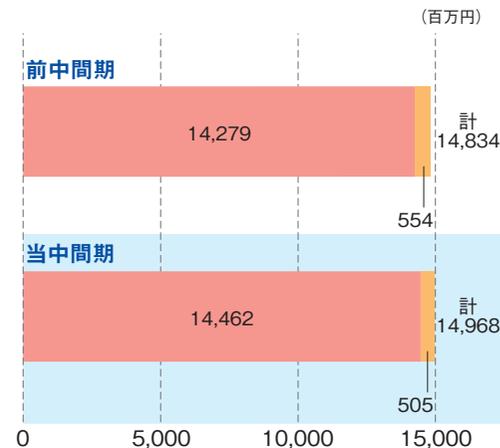
またドイツで開催の世界最大級の国際医療機器展示会「MEDICA」へは継続的に出展しており、高付加価値製品の医療機器・衛生材料の輸出推進と海外の業界関連情報の収集強化をはかっております。



海外向け衛生材料製品
「滅菌ベンシーツ」「エンドラクター®」

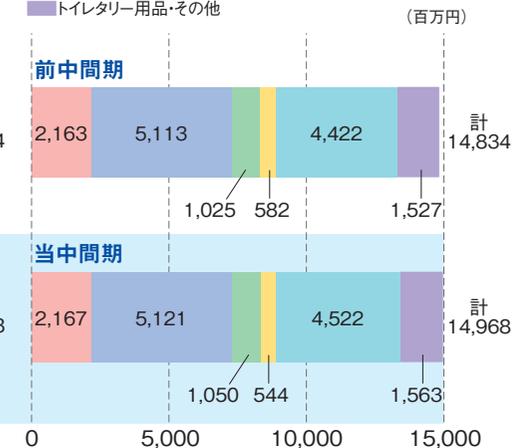
■セグメント別売上高

国内向け
海外向け



■品目別売上高

繊維製衛生材料
薄織物繊維加工品
トイレタリー用品・その他
医療用品
育児用品
介護用品



※1 当期より、「メディカル部門国内向け」と「アパレル部門」を統合して、セグメント名を「国内向け」に改称いたしました。
 ※2 当期より、セグメント名を「メディカル部門海外向け」から「海外向け」に改称いたしました。

■ 中間貸借対照表

(単位:千円)

	前中間期 (平成23年9月30日現在)	当中間期 (平成24年9月30日現在)	前期 (平成24年3月31日現在)
① 流動資産	9,946,645	13,882,271	11,026,746
② 固定資産	4,973,107	4,836,220	4,947,007
有形固定資産	3,817,950	3,659,756	3,761,580
無形固定資産	47,814	49,332	50,303
投資その他の資産	1,107,342	1,127,131	1,135,123
資産合計	14,919,753	18,718,491	15,973,753
③ 流動負債	7,631,179	9,561,903	7,887,161
④ 固定負債	2,749,592	4,425,186	3,425,507
負債合計	10,380,772	13,987,090	11,312,668
株主資本	4,477,825	4,653,131	4,560,643
資本金	883,000	883,000	883,000
資本剰余金	1,192,597	1,192,597	1,192,597
資本準備金	1,192,597	1,192,597	1,192,597
利益剰余金	2,405,811	2,581,201	2,488,712
利益準備金	86,100	86,100	86,100
その他利益剰余金	2,319,711	2,495,101	2,402,612
配当引当積立金	5,000	5,000	5,000
別途積立金	1,000,000	1,000,000	1,000,000
繰越利益剰余金	1,314,711	1,490,101	1,397,612
自己株式	△ 3,582	△ 3,666	△ 3,666
評価・換算差額等	61,155	78,270	100,441
その他有価証券評価差額金	61,155	78,270	100,441
純資産合計	4,538,980	4,731,401	4,661,084
負債及び純資産合計	14,919,753	18,718,491	15,973,753

① 流動資産

当中間期の流動資産は前期末に対して28億55百万円増加いたしました。

「現金及び預金」が3億39百万円減少、「受取手形」・「売掛金」が4億70百万円増加、「たな卸資産」が45百万円増加、「未収入金」では支払利息及び債権売却損の総額削減を目的にファクタリング入金の現金化時期を遅らせたことでの残高増により26億81百万円増加したことが主な要因です。

③ 流動負債

当中間期の流動負債は前期末に対して16億74百万円増加いたしました。

「支払手形」・「買掛金」が42百万円減少、「短期借入金」・「1年内返済予定の長期借入金」は債権の割引減少に対応するための借入金増により17億91百万円増加、「未払金」が32百万円減少、「未払法人税等」が30百万円減少したことが主な要因です。

② 固定資産

当中間期の固定資産は前期末に対して1億10百万円減少いたしました。

有形固定資産では、「建物」・「機械及び装置」が67百万円減少、「リース資産」が25百万円減少、投資その他の資産では、「投資有価証券」が19百万円減少したことが主な要因です。

④ 固定負債

当中間期の固定負債は前期末に対して9億99百万円増加いたしました。

「長期借入金」は短期借入金増加と同じ要因により10億12百万円増加したことが主な要因です。

■ 中間損益計算書

(単位:千円)

	前中間期 (平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで)	当中間期 (平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで)	前期 (平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで)
売上高	14,834,508	14,968,378	29,707,507
売上原価	11,991,609	12,043,753	23,968,802
売上総利益	2,842,899	2,924,625	5,738,704
販売費及び一般管理費	2,657,710	2,650,456	5,316,794
営業利益	185,188	274,168	421,910
営業外収益	38,597	55,495	152,679
営業外費用	132,675	93,599	213,958
経常利益	91,110	236,064	360,631
特別利益	11,015	—	13,112
特別損失	3,500	1,300	5,193
税引前中間(当期)純利益	98,626	234,764	368,550
法人税、住民税及び事業税	31,832	96,765	157,897
法人税等調整額	24,815	3,566	37,837
中間(当期)純利益	41,977	134,431	172,815

■ 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間期 (平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで)	当中間期 (平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで)	前期 (平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 158,611	△ 2,989,826	△ 3,552
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 19,381	89,165	△ 52,177
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 13,541	2,730,232	597,492
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 3,667	△ 2,781	△ 1,078
現金及び現金同等物の増減額	△ 195,202	△ 173,210	540,683
現金及び現金同等物の期首残高	907,108	1,447,791	907,108
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	711,906	1,274,581	1,447,791

■ 総資産



■ 純資産



■ 会社概要

社 名 川本産業株式会社
 設 立 昭和6年1月
 資 本 金 883,000,000円
 従 業 員 数 582名 (内、契約雇用者数97名)

■ 役員

代表取締役社長 川 本 武
 取締役会長 向 井 藤 年 功
 ※取締役 安 藤 木 功
 ※取締役 佐 々 木 治
 ※取締役 岡 田 新 史
 常勤監査役 川 本 新 史
 常勤監査役 横 田 茂 清
 監査役 日 上 俊 彦
 監査役 山 本 久 彦
 (注) 監査役日上俊彦、山本久彦両氏は社外監査役であります。
 ※印の取締役は執行役員を兼務しております。

■ 執行役員

執行役員 塩 野 宗 一
 執行役員 岡 本 博
 執行役員 川 本 純
 執行役員 大 水 上 博 司

■ 事業所

● 本 社 〒540-0022
 大阪市中央区糸屋町2-4-1
 TEL.06-6943-8951

- 支 店
 ● 東京支店 東京都杉並区阿佐谷北6-1-6
- 営業所
 ● 仙台営業所 宮城県仙台市泉区泉中央3-18-4 オフィス21泉4F
 ● 千葉営業所 千葉県市川市大和田4-19-2
 ● 埼玉営業所 埼玉県加須市花崎5-31-1
 ● 日本橋営業所 東京都中央区東日本橋3-7-19 友泉東日本橋駅前ビル4F
 ● 名古屋営業所 愛知県名古屋市中区城西3-12-12
 ● 京都営業所 京都府京都市南区上鳥羽岩ノ本町82-1
 ● 堺営業所 大阪府堺市堺区大浜南町2-5-8
 ● 南大阪第1・第2営業所 大阪府泉北郡忠岡町忠岡東3-14-20
 ● 神戸営業所 兵庫県神戸市東灘区住吉南町3-3-5
 ● 広島営業所 広島県広島市中区白島中町2-2
 ● 福岡営業所 福岡県福岡市博多区博多駅東3-1-8 ヒロショービル2F

- 出張所
 ● 札幌出張所 北海道札幌市東区北23条東16-2-30 アルティー元町103号室
 ● 高松出張所 香川県高松市多肥下町21-1 香西ハウス1F

- 駐在所
 ● 鹿児島駐在所 鹿児島県鹿児島市皇徳寺台3-68-1

- 工 場
 ● 大阪工場 大阪府泉北郡忠岡町忠岡東3-14-20
 ● 埼玉工場 埼玉県加須市花崎5-31-2



■ 株式の状況

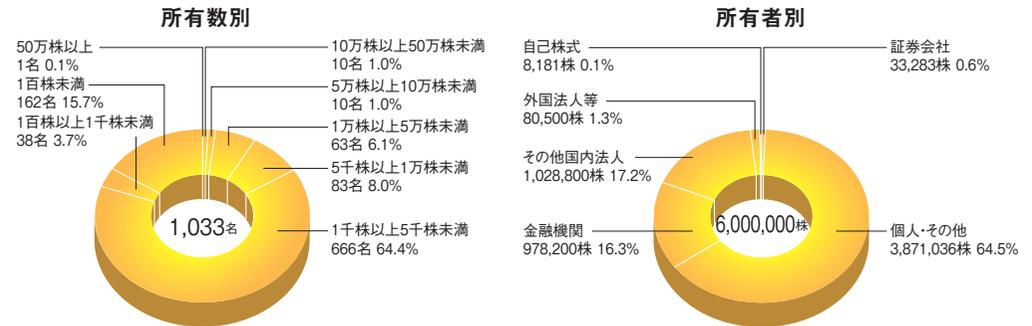
発行可能株式総数..... 16,000,000株
 発行済株式の総数..... 6,000,000株
 株主数..... 1,033名

■ 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
巴株式会社	600	10.0
川本社員持株会	442	7.4
川本 武	296	4.9
株式会社みずほ銀行	249	4.2
株式会社三菱東京UFJ銀行	249	4.2
カワモト取引先持株会	245	4.1
伊藤忠商事株式会社	196	3.3
株式会社りそな銀行	175	2.9
川本 洋之助	170	2.9
第一生命保険株式会社	100	1.7
株式会社南日本銀行	100	1.7

※1. 持株比率は自己株式(8,181株)を控除して計算しております。
 ※2. 持株数は千株未満を切り捨てて表示しております。

■ 株主分布状況



■ 株価および売買高の推移

